



『あ…♡はあ…♡つ♡あん…♡つ♡』

ジュン…

は…

は…

ジュン…

ジュン…

ジュン…

ジュン…

ジュン…

「フフ♡」
「これは…流石に…少し『まずい』かしらね♡」

「力が本当に、全く入らない…♡」
「…身体が、まるで糸の切れた人形みたいね。」

「まったく…」
「オーク風情が一体どんな小細工を使ったのか知らないけれど…」



『んっ…♡フフフ…♡随分と…悠長なのね…♡』
『抵抗できないからって、余裕になっっているのかしら…？』

ふい

ふい

ふい

ふい

ふい…ふい

『…よりもよつて』
『こんな粗野なオークに…こうも丁寧に抱き抱えられるなんてね…』

『…フフ、まったく…笑わせてくれるわ…♡』

「あー」

「ん」

「んんんんん」

『ふふふ…♡あら…結構、立派…じやなら♡』
『そんなに猛り勃たせて、もう我慢できないうの…♡♡』

ぞく…

ふい…

ぞく…

ふい…

ふに

ふに

ちゅ…♡

ちゅ…♡

ふに

ふに

『…でもどうかしら。』
『その程度の『もの』で、私を満足させられるのかしら…ね…♡』

『aaaaa』

『aaa』

『あ』

『aaaaa』

『あ』

『aaaaa』



『あーっ』

『あーっ』

『あーっ...』

『あーっ』

『ゆっくり...挿入してっ♡』

『あーっ』

『あーっ』

『あーっ...あーっ...♡』

「あふ♡」

ちゅ…ぽん♡

ぽん

「は」

ん♡

ちゅ♡

『あふふふふふふ』

ふふふふ

ふふふふ

ふふふふ

ふふふふ

あふふふふ

「ふふふふ…っ♡挿入されたただけなのに、この快感…♡」
「これは…本当に…♡」

『あーん♡あーん♡あーん♡』

あー

はあ

あー

はあ

あー

はあ♡

はあ♡

はあ♡

『あーん♡あーん♡あーん♡』
『もっ♡もっ♡私を昂らせてみなさ♡』

数十分後。



『ふふふ♡こんなに…中で硬くして脈打って…♡』
『もうんっ♡イイきそうなんでしょ…♡』

はぁ♡

♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

♡

びく

びく

ぱち

ぱち

ぱち

ぱち

『オークにしては…なかなか丁寧で…んっ♡
『テクニシャン…みたい、だけど…♡この程度じゃ…♡』
『到底、私を満足させることなんて…』』

「あやう」

「あやう」

「あやう」

「あやう」

「あやう」

「あやう」

「あやう」

「はぁ……ちゅ……ひゅっ♡」
「こっ♡なっ♡感じる♡」

「なん……でっ♡こんな……♡感じるの……♡」
「乳首……♡お……♡これ……まずっ♡」



「あっ♡はあっ♡あんっ♡」
「あっ♡いっ♡乳首っ♡だめっ♡」

「あっ♡あっ♡いっ♡オークにっ♡オークにいっ♡」
「イカされるっ♡イっちゃうっ♡」



『あ』

ぽんぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

「は——ああああんっっっ♡♡♡!!」

「あ……♡はあ……♡あん……♡」

...

「...」

は

は！



はい

ふんふんふんふん...

『あ……っ♡う……♡はあん……っ♡』





「はぁ...」

「はぁ...」

は...

は...

は...

は...

「ふふふふ♡」
「悪く…なかったわ…♡」

は…

は…

「あなたたちの責め…♡とても刺激的だったわよ…♡」







































